済生会今治病院
病気の話

# 下肢静脈瘤～弾性ストッキングコンダクターの関わり～

**今回は心臓血管外科専門医の栗山充仁医師に「下肢静脈瘤～弾性ストッキングコンダクターの関わり～」について伺いました。**

▲栗山 充仁 医師

下肢静脈瘤に対する治療は、最終的に手術となりますが、良性疾患であり急いで行う必要はありません。手術法は①血管内治療、②硬化療法、③外科手術など様々であり当院でも日帰りまたは1泊2日で行っています。術前・術後に弾性ストッキング（弾スト）を着用して管理していますが、意外にきちんと管理できていないこともあります。

弾性ストッキングは2004年に肺梗塞予防の目的で保険適用となり、2005年から医療器具として下肢静脈瘤の治療だけでなく、深部静脈血栓症や肺塞栓の治療および予防、リンパ浮腫の治療に使用されています。ただ履くだけではずれ落ちてしまったり、正しく履けていないと十分な効果が得られません。そのため、適切なサイズ、タイプ、圧迫圧や正しい装着方法の指導が必要です。当院では弾性ストッキングコンダクターに術前術後の管理を行っています。弾性ストッキングコンダクターの役割は、静脈疾患やリンパ疾患に対する基礎的な知識と弾性ストッキングの専門的知識・技術を習得し、ストッキングの種類・サイズの判断、着用後の不満・問題点の相談対応を行うことです。また、リンパ浮腫や静脈性の皮膚潰瘍病変に対する圧迫療法も行うことができます。認定対象者は医師だけでなく看護師、薬剤師、臨床検査部、理学療法士、臨床工学技士など幅広い医療関係者で資格を得ることができます。

余談ではありますが、過去の災害（2004年の新潟県中越地震や2016年の熊本地震など）の際には、避難所生活や車中泊を余儀なくされる方が増加し、いわゆるエコノミー症候群による肺梗塞患者が増加したことから、弾性ストッキングの装着が推奨されてきました。この資格を取得していれば、災害時にもその知識と技術を活用することができます。

社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院
0898-47-2500
今治市喜田村7丁目1番6号
https://www.imabari.saiseikai.or.jp/